

日墨戦略的 グローバル パートナー シップ計画

この計画は日墨両政府により、両国の戦略的グローバル・パートナーシップの強化に貢献出来るような若手人材の育成を目的として1971年から実施されているものです(旧称:日墨交流計画)。この度わたしはグアナファト州と経済連携協定を結ぶ広島県の推薦を頂き、メキシコ政府から一定の給付を受けながらメキシコの大学で勉強する機会を頂いています。この1年を通してスペイン語の習得に努めるとともに、関心の深いメキシコの独立運動や壁画運動の歴史、その他様々なメキシコの文化と日墨関係のあり方を学び、今後の日墨関係の可能性とそのよりよいあり方を自分なりに模索します。

【参考:日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画(外務省): [HTTP://WWW.MOFA.GO.JP/MOFAJ/AREA/MEXICO/JM_KK.HTML](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mexico/jm_kk.html)】

メキシコとメヒコ

びびりながらも、いざ、VIVIR。

いよいよ待望のメキシコ生活が始まりました。「暮らす」という動詞はスペイン語で「ビビール(vivir)」。

日本で周囲の人にこれでもかという程脅され(笑)少々びびりながらやって来たわたしですが、今度は周囲の人にこれでもかという程助けられ、本当に楽しくvivirしています。最初の難関と思われた家探しでは、同計画でメキシコから日本に渡った経験のある方々が終始交渉に付き添ってくださった他、広島県人会の方も沢山のアドバイスをいただきました。おかげで素敵な家をすんなりと見つけることができ、毎日そこからUNAM(メキシコ国立自治大学)のCEPEに通っています。

— No te preocupes. (心配しないで。)

わたしといたら、言われたことは理解できない、言葉は上手く出てこない、メトロでもたもた、バスでもたもた、会計でもたもた、あーもたもたもた。道路に至っては、「このまま一生渡れないかも...」と何度途方に暮れたか分からない残念な有様なのですが、メキシコ人は口を揃えてこう言ってくれます。いや見渡せばあちらこちらで、誰かが誰かにそう言っている。この「No te preocupes.」って、わたしが日本で使っていた「大丈夫?」より、もう少し相手に踏み込んだ言葉だと思います。その言葉の先には、いつも何かしら自主的な行動が続いている。わざわざ一緒に手伝ってくれたり、「わたしだって日本語話せないよ、jajaja(ははは)」と笑い飛ばしてくれたり。そして結局何も解決しなくたって、まあまあ、とでも言いたげに肩を叩いて、またもやjajajaと笑ってくれる。するとなんだかこっちまで、「まあいっか、jajaja」なんて気分になって.....は、いけませんよね、はい、すみません、頑張ります。でも、ここではまるで「もたつく権利」みたいなものがみんなに保障されているような心地がして、なんだかとても安心していられるのです。相手に「大丈夫」であることを強いずに、自分が相手に歩み寄ってみる。それって勇



▶ 独立記念日のフィエスタ にて

独立記念日のフィエスタに招待してくれた、友人のステイ先のおばあちゃん。つたない言葉で感謝を伝えると、「私は家に来てくれた子みんなのおばあちゃん。」と言ってくれました。彼女からリラ(Lila)というメキシコ人女性の名前(薄紫色の小さな花を意味するのだそう)まで付けて頂き、本当に幸せな時間でした。

メキシコの独立記念日なのに、家には日本の国旗まで飾ってありました。

気がいるけど、これからはわたしもメヒカーナを気取って使っていきたい言葉。なんにもできなくても、jajajaって笑いかけることはできるしね。

▼ところで、メキシコで歩行者が道を渡るのとはとても難しいことで、これに限っては一概にわたしが鈍臭いからというわけではありません。ただメキシコの交通事情を説明するにはドン・キホーテより分厚い本をしたためるか、社会的にはよろしくない言葉だったひとことで片付けるかという究極の選択をしなくてはなりませんので説明は諦めます。いや本当に、メキシコの交通はlocoですよ、あ、言っちゃった。

¡ Viva México ! (メキシコ独立記念日)

9月16日はメキシコにとってとりわけ重要といえる独立記念日。首都メキシコシティのソカロでは、前夜23時に現職大統領によるグリート(独立革命の契機となったイダルゴの演説を模した叫び)が行われ、その式典の様子はテレビ中継で放送されます。ソカロだけでなく、イダルゴが実際に演説を行った地グアナフアト州のドローレスや、わたしが住む町コヨアカンのイダルゴ広場、その他ありとあらゆる場所で民芸品市や様々なイベントが催され、メキシコ全土が祝福ムードに包まれました。

メキシコ人はこのような場所に足を運んだり、家族や友人とフィエスタ(パーティー)をしたりしてこの日を祝うのだそうで、わたしも前日の晩から、とあるメキシコ人ご家族のフィエスタにお邪魔させて頂きました。その家にはそれはそれは魅力的なおばあちゃんがいる、彼女を中心に、素敵な家族やその恋人、たくさんの美味しいメキシコ料理が集まります。お父さんがプロジェクタでソカロの式典の様子を映してくれたので、食後はその中継を見ながら、みんなで大統領によるグREETを待ち構えました。その厳かで盛大な式典が備える強烈なイデオロギーにあてられた私は、23時を迎えると家族と一緒に、まるでメヒカーナのごとく叫んでいました。

¡¡¡ Viva México !!!

家族で集まる。

国旗を振る。国号を叫ぶ。

立ち上がって胸に手を当て、国歌を歌う。

日付をまたいで、みんなで踊る。

今思えばそれは明らかに日本にない光景で、かつどこまでもドメスティックな空間でした。メヒコ的で、家族的。しかしひとことで「愛国心」と表すのは少しためられるような、彼らしか体感し得ない記憶、絆、生活の痛みをも孕んだ、その上での祝福の空間だったように思います。わたしがそこにいたことは、ある意味酷く奇妙なことです。わたしはその家族でもなければ、メヒカーナでもない。けれど、その親密で内的な空間を来客として見ていたというよりは、感覚的には空間の内側で、まるでその一員として一緒に叫んで、踊って、お祝いしていた。何故かそれが可能だった。 — “メキシコはアミーゴ社会” — 渡航前はこの言葉を聞いた時、「ああ、すぐそういう言葉をあてがって、勝手な理想を押し付けるんだ」と少し馬鹿にしていたけど(えへ、ごめんさい。)、でもあの言葉は本当のところ、何を表現しようとしてたんだろう。

現在通わせていただいている大学でわたしがはじめに教わったのは、この国の国号の正しい読み方と由来でした。Méxicoは「メヒコ」と読むのが正しくて、それはアステカの神様の名に由来する大切な名前なのだ、と。日本で思い描かれる「メキシコ」と、ここ「メヒコ」で触れるあらゆる出来事。その狭間で、今はまだ、たくさんの疑問が増えるばかりです。

9月15日・16日の Coyoacánの様子



コジョアカンは独立記念日前日から大変な賑わいで、道路は広く交通規制がかかり、おびただしい数の露店が立ち並びました。教会付近の広場では伝統衣装や国旗のモチーフ、鮮やかな民芸品を身に纏った人々がひしめいていて、設置された大きなステージでは、伝統ダンスや音楽が披露されていました。一見すると日本の祭りに似ていたかもしれない。でもその賑わい方は、「お祭り騒ぎ」とはまた少し違ったような気がします。あらゆる物語や文化が様々な形を成して現れ確認される仕組みに満ちていて、人々はそれを思い思いに楽しみながら、祖国を祝福していました。